



本草綱目詳說

九

十六

一
937
9



本草綱目草部目錄第十八卷

草之七 蔓草類七十三種 附十九種

菟絲子 雞火蘭附 五味子 蓬蘽

覆盆子 懸鉤子 蛇莓

使君子 木鼈子 番木鱉

馬兜鈴 青木香 即毒 榼藤子 預知子

牽牛子 旋花 太乙金銀 即鼓子花 紫葳 即凌霄花 骨路支附

營實 牆藜 月季花 桔樓 即天花粉

王瓜 即王瓜 葛 黃環 即鼓鼓子

天門冬 百部 白并附 何首烏

草薺 菝葜 土茯苓

白欵

鴛抱

九仙子

解毒子

即苦藥子 奴會子 藥定根附

剪草

通脫木

法象天 壽根附

白兔草

薤薤子

烏欵母

絡石

女萎

伏雞子

人肝藤 仰盆附

山豆根

威靈仙

防己

釣藤

倒挂藤附

白花藤

赤地利

律草

木蓮

九條附

赭魁

千金藤

陳尾皮附

黃藥子

白藥子

陳耳白藥 銜洞根

茜根

血藤附

通草

黃藤

白英

即鬼目非瓜子

紫葛

羊桃

扶芳藤

苦苣菜

甘藤

甜藤 耳後附

紫草

百核藤

落鷹木

折傷木 風延母 每始至木附

藤黃

千年草

合水藤

南藤

烈節附

省藤

思冬

即金根花

天仙藤

清風藤

紫藤

千里及 即千里光

附錄諸藤 二十九種

本草綱目釋名卷十八上

菟絲子

門人 岡田麟 筆



菟絲子

子ナシカツラ

ウレノウツメシ

江別、ツリカ子ニモウレノウツメシノ名アリ

ムナクサ

大豆ノ中ニ此子生ズレハ
大豆ヲ種ラズ故ニムナクサト云

一年ニノ三月頃生ス初生一二寸ヨリ草在憂

延ノ根ハ枯腐ル末ハ長ス諸草ニ突レリソノ草亦憂

ハ根憂ニ枯ル憂葉赤色巨キモノハ徑一分近レ索

麩ヲ散ルタル形ノ如シ夏ノ末知レニ花ヲ開キ種ヲナス

白色ノ管子様潔ク長クミナリ馬解木ノ花ノ如ク浮

実ヲ結ブ中一分長サ一分半種ヲ常褐包内ニ黒子

アリコレヲ常用ニス葉ハナキモノニ

附録 雜草類 未詳

五味子

南北ノ葉アリ朝鮮ノ産ヲ遼五味子ト称ス又北五味子ト
名ク朝鮮ハ中葉ノ北相當リ故ニ厚朴年中朝鮮ヨリ
種ヲ来ス今人間ニ裁ニ葉杏葉ニ似テ長シ又亦天竺
葉ニ似テ鋸齒祖ニ似アリ嫩葉ニハ葉互生ス花ヲ不着
曰蔓ニハ四五葉一処ニ攢生ス其中ニ花アリ三月頃開ク
白色ニハ微ク緑ヲ帯フ形荷花ノ形ニ似テ小シ重葉ニハ
八九瓣花後ニ空ヲ結ラテ下ニ垂ス生青ク熟テ赤ニ
南天蜀子ヨリ大ニ葉冬枯ル蔓不枯今存存澤沛園

裁テ林下庭へ上ルモノ昂ラコレニ五味全備ニ唯色不黒葉
肆朝鮮ヨリ来ス北五味子アリ色黒ニ近來明和五
年ノ取和
産北五味子ヲ出ス駿河ニテ初テ見出セリ和泉記別産
野播磨七種山ニタテ敷山山別木舟ニ産ス朝鮮種
二月ニ葉ハ大ニ茂レリヤハラツルウレワトウニツフトウ
ニツフサモチカツラワタカツラ等花ノ形朝鮮種ニ似
實熟ノ黒色ニナル故ニウレフトウト云蔓ヲ断スレハ和葉
アリ故ニ和ヲサト云蔓ノ本皮厚ク軟ニ故ニワタカツラト云
是非五味備ルコレ北五味子ニ葉厚ク光リ和産北五味子葉ヨリ
短中葉ニ粗ニハ後ニ鋸齒アリニ在在
和ヲナス下ニ垂スルニ南五味子サ子カツラ和
葉厚ク光リ和産北五味子葉ヨリ
短中葉ニ粗ニハ後ニ鋸齒アリニ在在ピンツケカツラ和
葉厚ク光リ和産北五味子葉ヨリ
短中葉ニ粗ニハ後ニ鋸齒アリニ在在
ト口ハカツラ伊豫ヒナンセキ伊豫
伊豫知ニ多シ市中ニ裁ユコレハ

冬ヲ経テ茎葉トモニ不枯葉石ノ皮リ長クノ尖ル鋸
齒アリ冬ニ其ハ紫明ニナル夏末至秋葉同。花ヲ開ク花
葉長クノ一寸余花形北五味子ニ同シ實ハ不同同ノ節ニ
植テナシテ生スコノ實ヲコレカケト云ハ別種ナキ南天
写子ヨリ小シ古ヨリコレヲ和ノ五味子ト云テ實同ノ
ナシ五味不備。朝鮮産ハ形大ニ開アリ色黒ク全五味
備。中華ノ産ハ小ノ開ナシコレ和ノ實ト同ノ南五味子ニ
今ニテハ和ノ南五味子ヲ酒ニテ煮テ開ラ付テ色ヲ赤ニ
北五味子ニ偽ル子ヲ碎テ仁アルモノハ韓産ノ北五味子ニ
仁ナキモノハ中華ノ産及和産ノ南五味子ニ亦竹葉
言曰生者親紫ハ九月終末曝乾則紫黒今吳越

建南等處亦有名南五味子色仍紅乾枯サ液不
若遠北高麗色黒肥大且滋潤之。人間所裁韓種
モノ子ノ色ヲ以テ云ハ南五味子ノ如シ然レモ子大ニ五
味備ハトコロニテ考レハ北五味子ノ一種ナルヘシ

蓬

蓬草 ヲサイナチゴヤフイナチゴワセイナチゴクワンスイナチゴ
竹林ノ傍ニ多ク刺多クニ葉ニ毛ト刺トアリトキンイバラニ
似テリ皺アリテ大ナル葉七葉着ク一葉離レハ棘葉ニ似
テ大ニ鋸齒アリ三月枝ノ末ニ花アリ白色ニ瓣大ニ寸
余メ七八瓣ニ至ル花後ニ葉ヲ結フ四月ニ熟スイナチゴノ
中ニテ最大ニコレ昂テ陳士良所謂蓬ニ似野葛似有
刺トコレ能ク毒ノ時珍ノ説ハコレヲ以テ寒ニ母トス謂ニ

中葉ニテモ諸説紛々たりワシスナリナコヲ以テ本條ニ
充ルモノ是之實ノ形籩子ニ似タルヲ以テ名ククニイナコニ
似テ刺ノ少キモノニ

釋名 復盆子 トツクワイナコ 冬ニ母 冬イナコツルイナコ時ニラス冬不根北夏延不冬萎子葉似

テ区厚子ニ深緑色ニ葉ノ未花アリ 小ニ秋ニ葉熱ス最小シ

准中解 時珍曰益母子 時珍曰俗名割田蕪 冬イナコノ一ノ葉厚

モノ誤 俗名柳田蕪 尋復盆子 精田蕪 ナハシロイナコアリク

河原ニ多シ葉ト木トニ葉タルモノニ母ニ葉一処ニ横生ス鋸齒アリ 葉背白リ四月花アリ五辨ニメ小シ多ク積生ス五月實熟ス小シ 山母 時珍

時珍曰 本中所謂蛇母ニ クウナハイナコ

復盆子 トツクワイナコ アイワトヘイシム

伊勢越前ニ産シ毎ノ形壘ニ類ス故ニ名ク今種樹家

ニ得種ノ復盆子アリコレ浙江ノ種ニトツクワイナコト
同シ夏生ニノ茎ニ刺タクアリニ茎ニ葉トモニ白色ヲ帯フ
葉ノ形藉田蕪ノニ葉ニ似テ五葉ニナル又七葉ニモツク此
得種ハ絶テ花實ヲ不結和産花實アリ葉尖ル
ナニ舶来復盆子ハ實ノ長サニ分中ニ分余尖リ
和俗スキナリト云カ如ク分中ニ分余尖リ如ク復盆子
ノ名アリ乾タルニ緑色ニ星半熟トキ米ル故ニ稔宗爽
曰收時スニ分熱便可米トコレナリ

任中解 本草四 藉田蕪ナリ

懸鉤子 キイナコ 折生ニ又實尖 カナイナコ 折生

色ナリ設ニ名ク 此ニ 此ニ

山ニ多クアリ高サ三四尺叢生ス茎ニ刺多ク鉤アルヲ以テ
名ク葍ノ形種ニアリ細長葉アリ同葉アリ岐アルアリ五
岐或ハ七岐ノモノモミナシ似タルニ午時紅葍ニ類スルアリ
鼓子花葉ニ似タルアリ同葉ニシテ尖ナルアリ形山字ニ類ス
葉互生鋸齒アリ花ハ白色ニ辨梅花ヨリ小シ花
後方ヲ結フ五月頃熟ス黄色ニ一種熟メ赤色ニナル
アリコレハ葍四ツノ三尖山字ノ形ニ類スルモノ也又厚ク
毛茸ノアルモノアリ黒ナルガ如クナレモ同物ニ何モ葍葉
ニ非ス種各別ニ

葍解

イナコノ種名ニ一物ニ非ス

蛇母クナナハイナコヘビイナコミツハイナコ箱田蒸ト曰名

カラスノヤコモ、フラカマリヤ名モワルカマレヤ曰エ
野ニ多ク生シ是ハ生ス葍葉ノ如ク地ニ延ス二月頃生シ
冬ヨリ生スルナラニ毎ニ葉ツリ細長キ葉ニ鋸齒アリ
二月頃葉頭ニ花ヲ開ク黄色ニ辨大サ四五分緑色ノ葍ニ
重ニアリ花後方ヲ結フ赤色大サ花ニ曰レナ母アリト云
蛇合ト似タルモノニ五葉或ハ七葉ニナルモノハ蛇合ニ花
ハ後レテ三月開ク花ニ葉ニ輪母ヨリ微ク小シ又葍ニ
葉ニナルモノアリ花ニ葉ニテ分別スヘシコレヲオヘビイナコト
云固ヨリニ葍ニ着クモノハ本條ニ源氏ノクヒツキク
名アリ云云別ノ方言ニ而シテ或云蛇母ノクニ又云蛇合ノク
ナリト未決尚訪聞ヲ候ヘシ

侯君子 和名ナシ

和名ナシ澤後唯一種ノ偽辨ナシ穀褐色長サ一寸
又稜アリ乾後尖リ極子ノ形ノ如シ肉ハ白色新種ハ蔣ヲ
活スノ享保中清種ヲ来ス駿河ノ官園裁ユク多ク其
ヲ信フ毎斗江戸献ス他人ニ觀スルヲ林ホス近來ハ尾張
ノ津田實奎ノ園ニモ裁ル言フ信フ葉ハ長クノ幅一寸
長サ三寸許末ニテ微潤ク尖リアリ鋸齒ナシ茎葉トモ
微ク毛アリ年ヲ経レハ石ス巨クシテ葉深蔓或ハ樹如シ
常所ニテハ四月新芽ヲ生ス九月頃葉枯ル故ニ長スル
了不能暖國ニテハ三月頃花アリ一処ニ二十花擲ル後ス
俗ノ桜花ト稱スルモノニ似テ花ノ莖長シ初白色漸ク

紅又紫後紫ニ変ス故ニ數色相雜リテ最靑紫ノ葉ホ
莖ヲ短シ肉色ニ少クシテ能ク外ニ色淺シモ能ク徒テ
色ヲ赤ニス

木鼈子

和名ナシ舶来アリ錦荔枝核ニ似タリ長サ八分中ニハ
分許最厚シ灰色ノ内ニ仁アリコレヲ茶ニ用ユ次下ニ
番木鼈アヤソレニ對ノコレヲ土木鼈ト云
土トハ存上ノ意ニ
テ葉土ニ産スルニ

ノヲ括メ
エト云フ

釋名 似鼈蟹也 縱ニ見レハ鼈ノ形ニ似タリ横ニ
見レハ蟹ノ形ニ似タリ故ニカリ云

番木鼈

和名ナシ舶来多クシ木鼈子ヨリ小由リメ扁シ咬嚼也

馬錢ノ音
轉シタルモノ
カヲシオクニ云

ヒヤカタラ

ヨリタクク来ス。本経逢原曰能毒狗狗性大強此性大
之ミマニ從相及激之使然。本草原始曰鳥中之毒
則麻木搐急而斃狗中之毒則苦痛新腸而斃
又曰有大毒者誤服之令人四肢拘赤口或狗中此
毒豆腐ヲ用ニ能解之毒ト云ヘリ以豆腐割過スニ
佳子解ニ見ヘタリ

馬兜鈴

ニヤカウソウ昔石 ツンボクサ此安耳ニ毒ス
誤ニ名ク ムニノスバ此ノ名

馬兜鈴 ムニノ名玉青木香ハ根ノ名ト云青木香
ト云ハ南木香ノ一ニ後世ニ青木香ト云ハ此ノ本條ノ
一ニ馬兜鈴ハ山茶ニヤカウソウニ似テ其葉用ヲ生シト葉厚クク多ク
黒ミアリ臭ニ辛ククシ夏花ヲ開ク半夏ノ花ト似テ

綠色ニノ紫色ヲ帯フ秋ニ実ヲ結フ形中葉ノ所割鈴ノ
形似タリ長一寸中六七分ヲタニキノ花ノ如ク圓ク長
ニ四ツ許リアリコレヲ厚解ニ開ニ四系ト云系ハ系講ノ
系ニナワリノ一ニ縁アリテツリテアリ褐色中ニ白色ノ子
アリ扁ニメ楡莢ノ如シ系源ニ産スルモノ云ヲ不結
ニ別ノ名實ヲ結フ

楳子

海中ニ漂流ノ来ルモノ之筑前瀧ノ所然但馬海濱所
漂着スルアリ海濱混流ニ来ル故ニモタニト云或言
モタニハ蜜語ニ因ク扁シ大サ一寸半許栗殼ニ色先
アリ上ヲ少ク削削ヲ去葉瓢トス肉油多ク惡臭アリ

リ明和六年ノ頃薩州ヨリ有ラ来ス其根此字
着テアリコレニハナリ夏者ナノ木通葉似テ左
右各二葉總テ四葉中ニ未^キニ長^ク二條アリ一葉離セ
バ南天^ノ葉ノ如シ冬ヲ不^レ徑^ルノ皆枯クリ

附録 合子有^ルコキツルヨノガサヲヨノコキ^ノ莖前

カハホウツキ^ノ肥前ヒサノコ^ノワシ^ノ莖前

野ニクダシ^ク夏者^ノノ馬^ノ駟^ノ似テ葉長シ黒^クアリ五
尖^ク玉瓜^ノノ葉^ニ似テ小^ク又長シ花^モ小^シノ白^ク影^ノ如
枯^レ葉^ノニ似テ至テ小^シ秋^ノ小^シラ^テ結^ル果^ノ如シ外ニ
了^レ揚^ルアリ^ル緑^ク色^ノ自^ラ椽^ニニツ^ク碇^ノケ^テ椽^ノ形^ノ如シ内ニ
二^ツ粒^{アリ}綿^カ茄^ノ枝^ノ核^ノ如シ小^シ

預知子

此集解ニ説トコロノモ^ノ未^レ詳^ク正字通ニテハ上ノ附録ノ
合子有^ルノ^トメ^ノコ^キツ^ル之^正字通預知子一名僂沼
子^替寧^曰生^池間^苗似^亭牛^有逆^刺節^有房^設
口^内詩^二子^陰湯^和合^能除^虫益^毒子^状似^龜絲^之相
則^黑色^如米^子滿^升之^間爆^鳴似^人兩^仇相^擊声^將
將^所采^者分^為二^穗有^声者^何杜^又分^為二^有鳴
則^記之^佩衣^襟間^入虫^益毒^知子^身鳴^爆三^子為^偏
氣^不足^木必^采用^本有^十謂^夏生^依木^子似^皂荚^ノ
非^之古^ニ得^後了^リト^云而^ノ之^形狀^ヲ不^詳本^節皇
氏^着常^ノト^キ仁^沼子^ヲ佩^ルト^{アリ}今^ハ得^後ナ^シ

忘年牛子 アサカホ

古三ノ一ノト云ハ本種ノ一ノ万葉集ニ社ノ七種ノ歌アリ
其ノ中ニアサカホト云ハ本種ノ一ノ後世ニテハ忘年牛子

ヲアカカ
ホト云フ ケニゴシ 古今集
物名評 コロクワラム 在毛

人家ニタツク種ニ品類タラシク花チ青碧色ノモノヲ黒丑ト

云又黒高牛子ト云又白花ノモノヲ白丑又白高牛子ト云

共青者 青碧色ノモノハ葉ハ三尖白花ハ同葉ハ尖

三尖ニナラス又白花ノ黒子ノモノアリコレモ白丑ナリ

近年ハ肥ノ岐五岐ニナルアリコレヲ桔梗咲ト云葉モ五

尖ノ又形ニ因テ梅咲ト名ルアリ又雜色ノモノアリ江ノ

モノアリ中華ニテ青碧色ト白色ト相雜ルモノヲ黒

白江南花ト云見手
花鏡 十葉ノ雜色アリ 至テ稀ニコレハ在ラ
不徒花開ケハ花葉所

ナリ初年ノ忘年牛子ノ中ヨリ亦及生ヌ又翌年生ヌ

忘年牛子

佳子解

時珍曰白者人多種之云此ヲ以テコニ列スルハ誤ニコレ較表本州所
載丁香花有之又天茄同工又ハ種画譜ハリアサカホ丁子トスヒト

フナスヒニハラス包ト各ク名タルヘシハラスト云云寛延初頃種子ヲ
来ス或琉球ヨリ来スト云然レモ名アルヲ以テハ琉球ヨリ来ストモ決シ難シ

春種子ヲトシ裁ニ葉ハ美種ノ何首身ニ似タリ葉ハ生葉刺アリ花ヲ開
キテ牛子ノ花ノ如ク小シ外ハ淡紫ニ色内ハ隈ニ花葉長シ房ヲ結フ初年加

ヒトクナナスヒニ似タリ葉ノ淡粉色中ニ子アリ白色ニ
忘年牛子ニ此スルニ最大ナリ此嫩葉包ラ食用ニス

旋花

此ルガホハタケアサカホニ、ダレワサ 正別
房根 カツホウ

四葉ノ旋花ノ一ニ然レモ
國ヨリ来モノヲカリ云 アメフリハナ 此亦同葉ノ種ナリ而レモ
仁屋ニテハ如ク此ニモノモ云

最多年生ス根長ク土中ニ蔓又延ヌ葉ハ状長ク二葉有ク

左右ハ少ク岐アリ又五岐ノモノモアリ種々異レリ種子

自ラ別ニ夏葉間ニ花ヲ開ク辰時過ヨリ開ク白色ト淡

紫トノ一品アリ形忘年牛子花ニ似テ小シニ葉葉潤葉ニテ

コレヲ包ム喜年牛子ハニニ喜年ノ一種大ヒルカホニ化葉共ニ
大ニ色ニニ品アリコレヲ讚岐ニテテヨクハナト云救荒ノ蘇
長田コレニス海濱ニ生スルハ同葉ノ黒ミアリ尖リ
アリ厚シ大河ノ辺湖水辺ニ生スコレヲカツホウハナアメ
ワリハナト云種樹ノ家ニテアフヒカツクト云ハ花ノ大ク色ニ
赤ノモノニ同シ此ノ葉ニコレ雜草類ノ助子根ノ類ナ
ルヘシ

釋名 纏絲牡丹

名

襖花

救荒本草

コレ子葉ノモノ

ナリハ種画譜ニ因アリ最觀美ナリ和産ナシ中華ニ
テ邊草ナリハ種画譜ニ用ルモノハコレヲ撰ニタルモノニ
本邦ニテハ半邊蓮ヲ用タルモノニ

紫葳

ノウセンカツラ ヲロムホウム

一名 陵骨

人家庭際ニ栽ユ甚長大ニ至ル徑ニ寸ハ夏又巨シ木縁
テ茂生ス木ヲ枯ラスモノニ春新葉ヲ生ス紫葳
葉ニ似テ深キ鋸齒アリ深緑色六月頃ニ花ヲ開ク花
ニ花兩對ス常牛子花ノ如シテ大ニ本ハ筒子様吃ハ
五岐葩ノ先四クメ不尖内輪紫外土黄色葉ニモ
同色ニ花後小莢ヲ結フ長サ二寸許リ扁シ釋名ニ凌骨
ト云ハ大ニ夏又術ノ膏ヲ凌クト云意ニ

營實 牆藜

ノイバラ 白イバラ コミナイバラ

白イゲ 長崎イゲ マカクイ 備前イゲ サカヤニントウ
ニントウイバラ 若草 コサアト 紅毛

山野ニタクシ小木ト云テモ可ナルヘキモノニ高四尺春新
 葉ヲ生ス家叶ノ葉ニ微葉ノ如シ花ニ品アリ小葉ノ
 モノハ胃椒葉ノ如ク大厚ク更リアリ大葉ハ形月ノ大ニ
 共ニ小鋸齒アリ四月頃枝ノ末毎花ヲ開キ花葉ス大リ
 錢ノ如シ五辨白色和俗所呼櫻花ノ葩ノ如ク更又ア
 リ粉紅色ノモノハ少シ銅鑿ニテ此花ノ露ヲ采タルヲ
 紅毛ニテワアト口サアトワアトハト云外科ニ用ユ佳市解所
 謂南番有葉高ニ微露ト是ニ又此花ヲ香油ニ浸シタル
 ヲ紅毛ニテ才、リヨ口サアトト云和凡テ油ニ浸シタルヲ
 コビトリト云

佳市解 人家裁種者コレハ家園ニ栽ル葉ニ微ノ一ニテ野葉ニ微ニ非ス
 又葉叶ニ非ス花ヲ賞スルモノナリニ類群ニ多ク載ス

葉微ナリ 佛見笑 時珍ノ説ニテハホクシイハクノ一ニ從書ニテハ茶葉花ノ
 一ニメトキシイハクト云モノニ小者名木香 コレハ香木香ニ花ノ一ニメ
 ニホコレクシイハクト云利少シ白花葉ニ
 八重ニメ和俗呼為栴花ノ形ナリ

怒管寔 大サ南天芻子ノ如ク小ニ長ニアリ冬種メ紅
 春ニ至テ尚在リコレヲ葉ニ入用ユ

月赤ナ花 長春 誤リテ長テヤウ
 セントト云フ 四季サキノイハラ カウシニヤ
 イハラボクシ 楷列

庭除ニ栽ルモノニ葉面微ハ更ニ生コレハ木立ニ一処毎ニ之
 葉肥ハ七葉ツク拵條ヲノ能活ス栽ルハ枯易シ紅
 粉紅ニ葉葉早ニ葉アリ四時ニ開ク故ニ庚申ハナト云

月桂 月桂 圓史 コレハ毎月ニ開ク上品ニ在少シ
 關雪紅 和園子ノ説ニ冬咲ノイハラヲ以テコレニ在ツサニヤウイハラ
 ト云葉ノ形乃椒葉ノ如ク又小葉ノ野葉面微ノ如ク冬花ヲ

開ッ赤リ致ニ十葉一カ欠ケテ全ツハ不開
カ如シ致ニイサヨロイバト云フ

桔樓

子曰烏塊

和言書

カラスウリ

以下ノ木瓜ニカラスウリト云
母ニ幸條ヲ莫カラスウリト

云テ別ツ

クソウリ越前

カラスコニビ伊藤

カルリ伯耆

糸餅ニハ少シ木丹街道愛宕ノ道ニアリ胡瓜葉似

テ又岐アリ光リアリ毛茸ナシ黄綠色玉瓜ヨリウズ

木瓜葉ハ有キ

蔓ニ着テ互生ス一葉長頸アリ瓜蔓ノ如シ

コレ諸草木ニ纏ヌ五月花ヲ開ク本ハ筒子様末ニ開

ク赤キ牛子花ノ如シ大能ク先紅絲ノ如シ白色花後瓜

結フ木瓜ノ形ノ如クニ短シ生ハ青ク熟ノ青黄色瓜

ハ紅他國ニ産スルモノハ最大ニ種ニ漬或ハ香物トス中

ニ実アリ桔樓仁コレニ扁クメ一方尖ハ紅柿様ノ如クニメ

小シ葉肆コレヲ柿様ト云テ中ニテ同クメ扁キヲ

坐團様ト云アリコレハ子ノ辺ニキテヤウメシトリタル

モノ之又キテヤウメシキヲヌメテト云此根土團兒ノ

根ノ如ク連綴ス終年ハ最大ニ

木瓜 カラスウリ ツミツサ キツ子ノニリラ

竹林中ニ多ク生ス蔓葉ニ深綠色也蔓ニ線様アリ

葉ノ形圓クメ尖リアリ鋸齒アリニ尖或ハ五尖ニナル

厚クメ砂ス毛刺アリ蔓ニ着テ互生ス每ニ葉長

蔓スアリテ竹亦ニ纏ヌ五六月花ヲ開リ桔樓ノ花ノ

如シ本ハ筒子様長サ二寸許リ先ハ散絲ノ如シ皆白

色花後瓜ヲ結フ鴨卵ノ大サ桔樓ヨリ長シニ秋冬

メ赤シ 梧槿ハ種ノ 中ニ核アリ カニキリノコシラ 蟻蝨頭ノ如シト云 能形容
セリ形和祿ノ結ニ文ノ如シ故ニ玉ツサト云コレヲ炒リテ
食用ニス又將香油ニ調者食ス灰色ノ淡黄色ヲ萃フ
根ハ長ク老テ引連綴ス形梧槿ノ根ニ同コレヲ以テ
梧槿根ニ偽ル 核ニ切りテ花文ノアルモノハ 梧槿ニ 故ニ祿ヲ
名クニ此文ナキモノハ玉瓜ナリ又此根ヲ割ノ 天衣粉ニモ
偽ル

秋名 土瓜 多日名ニ乾葛見新註正音一草一研見通地

亦雅云茨菟瓜 未詳一物下非此上証類有詩所謂採葑採菲有

葛 八字註ハ蕪菁ニノカブラナリ非ハ陽ニ化菜服ニノ三月タイコンナリ
ク ス ヒニヤナア 佐毛 昔曼ノ名

山野ニ自生多アリ 中葉ハ家園ニ栽ユコレヲ家

葛ト云野生ノモノヲ野葛ト云又毒草ニ野葛アリ
別物ニコレハ治者ト音相同シツタウルモノノ葛日本
ニ家園ニ不裁皆山野ノモノニ茎葉ニ毛茸アリ葉
ハ扁豆ノ葉ニ似タリニ葉一処ニ着クニ尖ノ小豆ノ葉
如クアリ 京都ニテハ古野葛粉ヲ上トス 京都近道
ノ肩トハ葉ニ肥大ニ七月頃花ヲ開ク 紫藤花ノ如クニ
種ヲナスト壘ス長サ三寸許 紫赤色者ハ此花ヲ葉
セルニヤ一カ葉集秋ノ七種ノ哥ニ此花ヲ詠ス 結莢紫
藤ノ莢ニ似テ小シコレニモモアリ 此曼ヲトリ水ニ浸シ皮
ヲ去リ 編連子器トスツチコウリト云 江別水口ニ制
ス。此根ヲ水飛ノ葛粉トスコレヲ 和方書ニ水粉ト云

中華ニテ水粉ト云ハ結粉ノ一名ノ京ヲシロイノ一
者根葉皆ニ生乾ト暴乾ト二品アリ暴シタル白ク
粉ヲ常ク生乾ハ黄褐色此生乾ヲ常月ニ可ニ中華
ニテハ多ハ生膏ヲ用エ故ニ乾膏ト云テ別ツ

附録 鐵葛 未詳

黃環 根名 狼跋子 又名 未詳

此ニ説トコロノモ未詳 澤液ナレ沈存中ニ反陰葉枯ハ
紫糸ノ一トス而シテ紫糸ハ後月本條アリ又藤希
説ハ心書説ノ説ニ在リ

天門冬 スヘルクサ延長クサスキカワラ 今ハ和得通名

自然生ハ乾別ニタレ河波ニアリ海濱ニ生ス之月頃

宿根ヨリ有ラケ生ス葉ハ杉ノ如ク芽中ニ核ヨリ長メ粗ニツ
ク黒ミアリ初生ノトキ葉ノ本ニ葉刺アリ後ハ刺ナレ
蔓最長ニ四五月葉間ニ白色ノ小細花ヲ開リキレ
カリシノ花ニ似タリ キレカリシハ短根ニ芽中ニ本
條ハ蔓生ニ根ヲ葉月ニ多ク並テ生ス 乾別同
切ニ自然生多クニ酒肆ニ此根ヲ者大ニ下酒トシ賣ル
根節舊相易ル不采ハ根腐ル 古ハ叡山ニアリト云
今ハナレ

解 頤曰葉如絲杉而細散 棘核通雅ニ見タリコレエニカウキ
ナリ新考 蘇山ニアリ葉ハ核ニ似テ枝下ニ垂ス或ヒノスキトシ
スキトス皆非ナリ ヒノスキハ葉葉ナリモノニトウスキト云得名證核
系スキハ得名未詳

百部 別和名ナレ 和得通名

大倭本州ニキレカリトスルハ大ニ非ニキレカリシノ根ハ
細キモノニ本條ハ特生ト夏生ト二種アリ共ニ草保
年中ニ草種ヲ来ス特生ハ一尺許葉生ニ
嫩者ヲ生スルトキ花ヲ開ク者ハ若草ノ形ノ如シ一尺許
ニ四葉對生ス葉形攸^攸ナリニメ尖ル唯^{後遊}後遊ノミニノ
又ダスレナシ新葉ノ来トクト開カル内ニ根上ニ二三
ノ節ニ花ヲ開ク根上ニ二三節ノ間葉ナシニ葉ノナキ
処ニ花ヲ開ク四瓣ニメ錢ノ大ヤ花ノ不細クメ筒子様ノ如シ
筒ノ内ハ淡紫色ノ外ハ淡綠色ニ記ニ淡綠色葉
ハ紫根ハ天門冬ノ如ク一科ニ多ク並ニ生ス最蟹殼ニ
易シ又葉ノ先多ク尖ルモノアリコレモ同物ニ夏生ハ

草有ラ生シ夏長ク一節毎ニ四葉對生大ニ若一類
葉ニ似テ先大ニ尖ル六月葉ノ上ニ花ヲ開ク花イロク
ノ花ノ着ヤウト趣ヲ同ス葉毎ニ一花或ハ二花形特生
ニ同ノ小シニ四分許根ハ特生ニ同ニ此夏生ノ和名ハ
和泉奥列南部ニアリト云至テ少シ特生夏生共ニ
通用ノ可ニ種樹家ニ二種トモニアリ。延享丁卯乾
根ヲ来ス根中ニ葉アリ目^目致キスルニ特生ノ葉ニ鷹岩
沖園ニ栽ルモノハ夏生ニト云乾シタルヲ見ルニ厚皮ト
同ニ唯^唯厚ハ古クシテ開ニナキヲ突トス又明和辛卯厚
皮アリ長ヤ一尺許辟リテアリ長崎ニテ細葉様ト称
ノ来スコレ真物ナルカ未詳古後テ可^可用

附録 白并 未詳。通雅曰即百部之轉声
河省鳥 和傳通名

美種ヲ傳テ多ク載ニ芭釐茂スナリ曰蘇ヨリ新蘇
ヲ生ニ新葉ヲ生ス同ニノ吃少ナリ 天茄^{ハクハカ}似タリ
互生ス七八月蔓ノ末毎ニ花アリ細小白花植ヲナス
植ニ歧多クニ虎杖ノ花ニ似トシ子三角種子ヲ下ノハ
不生根連珠ヲナス一二年ニノ^{カクキ}諸ノ大ヤニ年許
ニノ胡瓜ノ大ヤニ年ヲ経テ越瓜ノ大ヤニ至ルニ和俗
カレウイニト云ニノアリ本條トハ能テ別ニコレ葉部ノ
實獨ナリ

草部卷十八下

草之七

草薺 トコロ アトコロ 草薺ト曰名

蔓草ノ葉者預ニ似テ大ニ長ヤニ年許又細クノ左右
ニ岐アルアリコレハ末ノ葉ニ脚葉ハ岐ナシ京師ニテ食
用ニスルヲ不聞江戸ニテハ食用ニスコレヲ江戸トコロト稱
ノト上ニトス根若味ナク似ミ少シ。京師通道ニカニト
コロト云アリ葉ノ形似タリ葉ニ岐ノ多クアルアリ又岐
ナクノ蔓者類ノ如キニアリ共ニ葉硬ニ根元硬ニ食
用ニナラズコレヲ木トコロト云若味多クニ正月春盤ニ用
ルニノ是ニ屬ト草薺ノ秋ノ角ノ實ヲ能ク大カ回ヤ

四ッ扁キモノヲニツ合セタルカ如ク種ニナル又江戸トコロハ
川草ノ解ト云々存経造原曰瓦川中大塊色白而紫
脆者為草ノ解乃色黄赤者為菰葉ノ一種小塊
質堅韌者為土草ノ解不堪入菜此說是之謂目ニハ
土草ノ解ヲ土草者ノ一名トス與此曰名異物。處山
刈木舟ニ葉ニ葉ノ才ニトコロアリ葉形菊ニ似トシ
花又多キナ云里ニアリ花大長根ハ大ニ又野
迎ニ特生ノ才ニトコロアリ一葉ニ葉者一類ノ葉ニ似
タリ長ク一寸許有為高ナ四尺四根ハ大ニ二種トモニ土
草ノ解ナリ

菰葉

カルトリイハラ

掃イハラカメイイハラ

イゲ日上ガシタナイハラ伊勢カラタナイハラ讃岐イヒツ
イハライハラエヒイハラカメノカウイハラ掃列ミ、ズコイハ
ラ和泉ムカクイハラ備前ホテクイ備後カシナイハラ
佐後カクハラ山石ホウテヤウイキ周防モロキハラ佐後
フキタマ佐列イハラ冬ニハ名
和俗誤リテ和ノ山帰来トスルハ非ニ山ニタタキモノニ花
生ニノ葉ハ一葉ユカムツヨキ花ニ巨キモノ節造
齒ヲ固クス葉楕ニ厚キモノアリ能通ノミアリ又
巾ノ底キモアリ大葉アリ小葉アリ紫斑ノモノアリ
一葉ハ二葉頂有アリテ纏ニス刺アリ葉互生ス
四月頃花アリ一寸許茎ヲ抽キ七八花發生ス六辨細

小花之淺黄ニメ少シ緑色ヲ帯ス花は實ヲ結ス生ハ
青ク①體ノ任大キ木穂子ノ如シ一種木キタチノ
ノアリ小木之高ク一尺餘枝多ク分ル刺多クシ葉圓
メ小シ大サニハ分縦道ノミ花實ハ本條ト時ヲ同ス共
小シ子ハ南天芻子ノ大ク如シコレハ救急本竹所載
山梨兒一名金剛樹又名鉄刷子即コレニ

土茯苓

山歸來 和名

和名十ニ舶來種ニアリ廣東上品琉球下品色赤
白アリ形小大軟硬アリ白色ノ軟ナルモノ上品短圓
雞卵ノ如キモノ良ニ長ク大ナルモノ多クハ後契ノ根ニ
琉球ハ長シコレ後契ノ類ナルヘシ今削リ用ルモノナ

五寸許雜信用モノ又刻ト云アリ明和六七十年頃來
レリ横切タルモノ之白色ノ粉ツリコレ上品ト見ユ
硬ノ赤キモノハ後契大ニ苗ハ言子保ニ年中ニ福別種ヲ
來ス江戸官園裁ニ蔓ス葉ニメ葉ハ竹葉ノ如ク細長
ノ尖最尖ル中一寸長ヤ七八寸ニ縱道アリ厚クノ皮
ニ生ス葉舟ニ形頗蔓アリテ竹木ニ纏ス根ハ雞卵
ノ如クニメ連綴ス時珍ノ説ニ祛ッ合ヌ真物ニ和ニ是ヲ
侍葉ノ土茯苓ト呼フ本竹葉言曰小扁如雞鴨子
大扁如拳ト是ニ琉球種亦言子保ニ年中ニ來ス京
北鷹馬岩年所園及西ノ所園ニモアリコレハ葉ニ後契ノ
如ク厚實ニ葉ニニ後契ヨリ芽ホ之花ハ後契ニ同シ之ハ

萩葉ヨリ小シ種ノ黒シ初生ハ刺ナシ三年ヲ経ハ葉ノ
木ニ赤刺ヲ生ス今琉球ヨリ後モハ葉ノ先尖リ又
同葉ニモ光ルモノアリ不変モノモアリ根長ク一二尺
許徑一寸許萩葉ノ種類ニ和コレヲ同葉ノ土茯苓ト
呼フ近々駿河山中及木曾山中ニ和産アリ同葉
メ刺ナシ琉球ノ産ニ少ク大レリ

白歛 和名通名

和名ナシ故ニ和名ナシ字保年中ニ有ラ来ス先物
生スル葉ハ同クメ鋸齒アリコレニ尖ク生ノ葉ニ三年ヲ経
ハハ葉又岐メ外ニ行キモノナシ大サ三四寸長ク着テ互
生ス節ノ毎ニ葉ニ對ニ鬚頭有スアリ竹木ニ纏テ四五月

頃此鬚頭有スノ葉ニ花アリ碎細メ黄白色四五花簇生
ス花後空ヲ結フ初青ク中ホトニ至テ白色極細小
斑点アリ種ノ青碧色乾テハ黒シ大サ南天子ノ如シ
根ハ雞卵ノ如キモノ三五枚一窠ヲ成ス土上ニアリ黄
褐色ニメ微ク黒ミアリコレ真物ニ舶来ハ白歛葉肆
アリ尤偽物ク多キモノニ此方ニテ偽ルカヤ昔ヤ諸ヲ乾メ偽
ル善ヤ諸ハ形大ニモ味耳ニ本條ハ形小ニモ耳苦シ生有
ノ偽物ハ紫萐ノ初生ニメ偽ル相園子ハ土團兒ヲ以
テ本條ニ充ツ非ニ當時年少種未流布トキニ故ニ誤
ト如此又葉家ニモ土團兒ニテ偽ルモノアリ

女萎 未詳 葶藶一名トトテ此日名

赭魁

松岡子ノ秘説ハ江戸トコロヲ以テ女萎ニ充テオトコ
コヲ以テ草解ニ充ツ未徳用有不用根ト云ハ江戸ト
コロニ非ルヲ必セリ江戸トコロハ前ノ條ノ草解ニオト
コロハ土草解ニ此ニ説トコロ形状不詳富故疑ヲ
テ可ヘ。本中原如曰苗葉類冬青凌冬不凋故獲
女貞之與言此味未秋昂菜女故女萎之名 此味トハ此草ト
云ハテリ

和産未詳近年ニ草トヨリ根ヲトリヨセタル人アリ

生ニキ中ニ来レリ後契ノ如メ紫黑色切リテハ黄赤

色ニ赤汁ヲ出ス草トニテハ此汁ヲ採リテ印草布ヲ

染ルト云々節ニテハ胡燕脂ニテ染ル故ニ洗ハハ脂脱ス

伏雛子根 未詳

人肝蒜 未詳

千金蒜 未詳

九仙子 未詳

山豆根

近年ニ草種江戸へ来ス道ニテ生有枯ル故ニ草枯ヲ
ルニノヲ来ス此ノ草種ニ同キモノ鹿野伊豆大塚山肥

條ノ苗ハ未後別ニ一名ナレ

鵝抱 未詳 別ニ一名ナレ

附録 仰盆 未詳

附録 陳思安 未詳

肥後山中ニ生ス肥後ニテイシヤクテト云 鹿野ニテ
ラシツウト云 今種樹家アリ 山中ニハ陸地或ハ大樹
下岩洞ノ如キトコロ溝ノ如ク掘レタル中ニ生ス其葉ニ
ニ深緑色ニ年ヲ経レハ白ク三人許根上ニ尺許ハ地
掘レソノ芝ハ直立スソノ地ニ塌スル葉ニ 鬚根ヲ生ス
葉ハ大豆ニ似テ如ク又胡枝子葉ノ如ク 區原ニ 園
面深緑色皆黄色ヲ帯フ 毎ニ葉一処ニ着ク冬
ニ葉不凋四月莖ノ末ニ六七果粒ヲテシ之ヲ法フ
桃ヲキ葉ヲキ珊瑚ノ実ノ如ク外黒色内白色花ハ未見
京師ニテハ花實ヲ不結冬枯レ根ハ牡丹ノ根ノ
如ク多クハ根ノ芝巨ク蘆頭細ク嫩苗ノ根ハ左ニハ

非ス唯経年ノモノ如此根ノ味大ニ苦レ切レハ肉ト皮ト
ノワカレアリ内黄白色外微ク黒ク葉ヲ帯フ 澤後ノ
山豆根ト根ノ形相用ニ紹興校定本註類 本註類 本註類 本註類
補シタルモノナリ註類 一云備急本草ノ 因ト社相合スコレ真物ニ若ハコ
ニツナギヲ以テ本條ニ充ル説アリ非ニコニツナギハ馬棘ニ

芙蓉子

和名未詳 味註ニ馬病ヲ治スルヲ云ヘリ此物
今ハ不没古没アリ 葉肆ニ傳ヘ儲クモノアリコレハ芙蓉
根ヲ以テ偽シタルモノト見ヘク

解毒子

未詳 三才因會作解毒子存
附録 奴會子 常實根 共ニ未詳

白葉子 未詳

附録 陳家白葉 未詳

甘家白葉 杉園子 カタコユリヲ以テコレニ充ツ山
常新王孫ノ新名ニ早藕ヲ載スコレト曰物トスカタ
コユリハ敷山ニタタレ春早ク生ス葉車前ノ如クニ葉
生ス花ハ卷丹ノ形ニ淡紫色花内ニ深紫色ノ文
アリ根ハ葱白ニ似テコレヲ食用ニス南部社金ニテ
根ヲトリ有粉ノ如ク餅トナスコレヲカクコニナト
云ニ葉ニ食用ニスト云一根ニ葉一花ニ一葉ノモノニ
ハニ化テシ葉ハ車前ニ似レモスチハナシ白ミヲ常テ此葉
班アリ充一様ナラス又白斑ノ如キモノモアリ 和名詳於
早藕下

會州白葉 衛洞根 突厥白 共未詳

威靈仙

産科解説トコロニ種アリ頑頑ノ説ハクカイソウノク
カイソウノ車三七 江戸種
折家 トラノヲ 旧名
多 ト云モノコレニ葉
所近山ハナシ種樹家ニタマリ宿根ヨリ生ス特生ニ
メ憂生ニ非ス一根數茎高サニ尺餘葉ハ鳳仙葉ニ
似タリ細鋸齒アリ舟ニ葉車輪ノ如ク層ヲナレ十層
許ニ至ル大抵九層ニ至ルヲ以テクカイソウト名ク五月頃
茎頭ニ花ヲ開キ種ヲナス長サ七寸許碎細ニ花タク
開ク淡紫碧色江列伊吹山ニ産スルモノ葉短クノ
六七葉車輪ニツク餘ハ月上又一種真列ニ産スルノ

茎軟ニノ茎葉正ニ毛茸アリ植ノ形扁シ色淡ク花小
正中ニ花アリテケルリノ種類ニ此奇品ニ種樹家ニ
コレヲ薩府ノ種ト云フ其ハ薩州ノ種ニ非ス〇三種ニ
根黄白色長ク三寸許ニヤリニナリ葉肆ニテコレヲ
真ノ威靈仙ト稱ノ佳ル

時珍ノ説ハ鐵脚威靈仙ノ和名ニツセント云フニ
一鐵線蓮西澤蓮西澤蓮西澤蓮西澤蓮西澤蓮赤茎威靈仙所
色ハ赤クシラニ似タリ蔓草ニ甘花ヲ開ク其外一
重ハ蓮花ノ如シ内ハ重辨ノ菊花ノ如シ葉アリ外葩
七八辨アリ青碧色ニ微ク紫色ヲ帯フ白花ニ
アリ内ノ葩ハ淡紫ニ配教スレハ慈深ハ菊ノ花形ノ如シ

故ニ西洋菊ノ名アリコノ根長クメ生ハ黄黑色乾ハ
深黒色葉肆ニテ唐ノ鬚様威靈仙ト云又真ノ鬚
様威靈仙ト云アリコレハ大莖多根ニ毒アリ用ヘカラス
根黄色ヲ帯フ諸書所載威靈仙皆与續頌所記
同而鐵脚威靈仙於諸書無有此名唯附方有赤茎
威靈仙即鐵脚威靈仙也花鏡曰鉄線蓮或云威
靈仙

茜草 アカ子根赤カニフテリヨ紅毛カニホルルイト同上
山野共ニ冬ヨリモ生クルナルヘ早暮既ニ生スニ方
茎ニノ四葉對生在赤解ニハ又葉ト云ヘ正赤節ニテハ
五葉ノモノ未見葉ハ烏葉ニ似テ赤毛ニ葉ニ毛正赤細

毛刺多ク長ク爲又延ス枝ヲ分テ小白花多ク開ク其ハ
蜀椒ノ小キク如シ熟シテ黒シ根細クメニヤクニ之葉赤色
コレヲ葉用ニス又染彩ニモ供ス大和山中ニ特生ノ
葛草アリ旧根ヨリ生ノ因茎高サ一尺許四葉對生
三四層ニ至ル茎頭ニ枝ヲ分テ花ヲ同ク五瓣ノ碎細花
ナリ毛刺ナシ根ハ蔓生トモノニ同シ

附録 血藤

從實博記爲本條一名亦可久

前考 モ詳

本經逢原曰白棠子條中曰葉名剪草ト
右ヨリ白花ノトヲノオヲ以テコレニ亮トモ未穩示性

大全曰ク花似小薊而形容不同

。葉性奇方曰一名白棠。別一名ナシ

防己

得防己木防己ノ別ニ又得木ノ別ヲヤウモ種々アリ陳
藏器ノ記ニ從テ根ヲ得防己トシ者ヲ木防己トス
コノ記ヲ是トス本州他家至本州滙本經逢原氏藏器
ノ記ニ同シコノ得防己ト云モノ種樹家ニ得種ノモノ
アリ其葉至テ細ク葉ハツ、ラフチニ似テ汚ク小シ一寸
三四分。又和産モアリ大ツ、ラフチツタノハカツラト
モ云木船山中ニ多ク大ナル葉四寸許四葉アリ尖ハ
アリ或ハ二尖三尖五七尖ニ至ルモアリ種々葉甚多クシ

最ニ有子ツノ黒アリ此蔓根トモニ切ハ車輻解トテキク
サノスチアリコレホ子當之ヲ祝ニ社合フ。有テ木防已ト
スルトキノ木防已ハツバテフゲアチツ、ムラ。メウフケカ
ツラ。ナシクカツラ作列コレハ山野ニタケシ四ノ尖リ互ニ
毛茸アリ葉ノ左右ニクワリカタマリテ葉子葉ノ如ク
ニニ尖ナルモアリ又ニ尖ノ中ニ種々変スルアリ四ノ中
ニ種ニアリ夏小花ヲ開ク黄白多クニ結ヲナス実ハ而
燭ノ大ヤ種ノ堅色此蔓ヲ採リテ葉肆ニ防已ト称ノ
佳ル此蔓ノ巨キトコロヲ切レハ車輻解アリ根ニ車輻
解アリ而シテ大ツ、ラフケハ木理粗ニツ、ラフケハ木理密
ナリ葉ニ根ヲ用ル故ニ防已ヲ用ル可ニ本ノ葉が茎ハ

根ト蔓ト効ヲ別ツノ澤中ニ生ルモノ上品コレヲ防已
已ト名ク本ノ葉言曰以澤中者為勝故方者多ク称
得本防已。十品ノ防已ヲ木防已トス葉言曰外有一
種根為膠ニテ而皮敬上有丁足子者名木防已性
稍峻烈不任用。ホ子當之ノ説ハ上品ノモノニモ防已
ナリ葉言曰云ノ防已モ大ツ、ラフケノ一ト下品
モノヲ木防已ト指タルモノハ古ヨリハスノ葉カツラニ充テ
タリ記列山野ニアリ四ツノ尖ル葉ノ正中ニ茎ツクヤ何
葉ノ如シスナシモ荷葉ニ同シ又ヤキモノナカツラ
イヌツ、ラ野トモ云ハ花ハ緑ヲナシテ葉生ス小花メ
黄白色後ニ赤ヲ結フ種ノ黒コレ下品ノ用ニ不任葉

際ニテハ花實ヲ不結野ニハ實ヲ結フ根少シク
車輻解アリノ舶来ニ防已アリコレハツ、ラフテ又大
ワ、ラフテトハ大ニ異レリ根塊ヲナシ白色ニノ理客車
輻解ナシコレハ葉言ニ條防已瓜防已ノ因アリ瓜防已
ハ瓜ノ形ニ画ス今舶来ノモノ瓜防已ニト云用葉頌
知見ヘタリ條防已ノ因ハ條防已ト見ユトカリ切レ
車輻解アルヲ用ヘシ今後ニモノハ瓜防已ナレ用レ
カクニ瓜防已和産未詳

通考

アケビ アケビカツラ アリヒ 鹿野 夕、ハ列
キウスイノウ遠江タシホ、梨ゴサイホツル若枝

山野トモニ多クシ葉形楕之五葉毎一処攢生ス云

葉ノ大サ四寸を大小アリ舊方夏ハ葉大ニ嫩夏ハ
葉モ小シ夏ニ着テ毎五葉互生ス四月頃葉開少
枝ヲ生シ又少ク枝ヲ分テ花ヲ開ク大サ四寸半淡紫色
ト白色ト二品アリト垂ス實ハ瓜ノ形ニ似タリ径リ一
寸長サ二寸許夏巨ツナラサレハ實ヲ不結肉白核
凍黒ニ色光リアリ此核ヲ本邦ノ示驛ニテ因袋子ト
云此石ヌヲトリテ葉用ニス切レニ車輻解アリ和産最
佳ノ舶来ハ多ク葡萄ノ蔓ヲ雜入ル形ハ矣トレニ
效ハ視月ニ而和産多クアリ且新ニ改和産佳ノ本
草逢原曰木通ハ嬰菓真根ニ此説非ニ本竹新編
ハ葡萄蔓ニト云亦非ニ物理小識曰誰不通能行

通服木 和名未詳

色似沈香有車輪解川木通也白止通小便偽者葡萄藤之木竹葉言曰色黃白者良黑褐色者為雨暘所浸以致形色腐黑用之力量不及又三葉ノ木通アリ大豆ノ葉ノ如シ又三葉ノ鋸齒ノアルアリ花ハ皆同シ又別ニ三葉ニ似テ大ニ凌冬ノ葉不凋コレヲトキハアケヒト云 綱目ノ甘藷子部救荒本草ノ野木瓜コレニ固ヨリ別物ニ和名相近キヲ以テ誤スヘラス

鈎藤

カキカツラ カラスノカギツル カキノツル 三三

附録 天壽根 未詳

能似似紙ノセキタイニ挿テアリ彙言ニ勝花ニ造トヲ云ヘリ又瓢ヲ果ニ充テ、食フコレヲ燒通系ト云見事林廣記曰通草字有刻物像子以柴灰石灰淋汁煮用水浸去灰脚以生糖土器煮之日本邦ニテ山燈心ト云モノアリ中ニ瓢アリテ燈心ノ如シ然レニ細ノ本條ノ如キモノニ非ス又京師ニテ酒中花ニ作ルモノハ惣本ノ心ナリ中ノ瓢ヲ採リテ所リ片ニシ人物或ハ草花ノ形ニ刻ミナレ設彩ニ摺シテ酒中カケ酒中ニ投スハ自然開キ形ヲアラハス是亦本條トハ別ニ

カツラ 廿子カツラ 共能野、手 サルトリクイ 若 今ハ和洋通名
南五味子曰名
山別和尾山中ニアリ蔓草トシメ蔓極長大ニ至ル又和
別草有山ニ蔓大ナルアリ一タカヘニ余ルモノ之藤列長
別防列遠列覆列託列山中ニ皆タラシ業律此釣
任ルモノタラシハ莖云列ヨリ出ツ サレキ 杆ノ融ク限ス又ノ
小キトキハ方々ノ如クニ見ユ徑年ノモノハ回草ニ蔓
兩頭尖リ臘梅葉ニ似テ剛ナシ支リアリ嫩葉ハ江
葉ニタルカ如シ兩對スニ葉ノ少ク上ノ方ニ兩對ノ二鈎
ヲ生スニ次ノ葉ハ一鈎ヲ生ス又ニ次ハ二鈎對ス
次才ニカリノ如シ皆下ヘ曲ル秋ニ至リ鈎自落ツ此トキ
原色ニ鈎ノ嫩キトキ采用ニ本竹漚曰遠紫色ニ去梗

純用嫩鈎ニ初十倍ト此蔓ノ乾ニ五寸許ノ枝ヲ分
テ又ニ枝ノトニ小枝ヲ分テ實ヲ結フ楊梅ノ大ノ如シ
南都ヨリ乾タルヲ采スコレ必ス實ナルヘシ又壓條ニシ
テモ融ク限ス

附録 倒掛藤 コレ本條ト同物ナルヘシ

芙蓉 未詳

白亮薔 未詳

白花藤 未詳

白英 同葉ノヒヨトリニヤウコ

古ヨリホロシト訓スルハ藤ニホロシハ ヒヨトリニヤウコ 蜀羊泉ノ古名ニ
白英ハ同葉ノヒヨトリニヤウコニ蔓ニ至ルニ七ナシニ葉

楯ノ先尖ルチレロイハナ紫葉茉莉葉ニ似テ互生莖又長シ夏秋
 花ヲ開ク一花舟一枝ヲ分テ十四五在開ク簇生ニハ
 非ス葉莖ノ附タル如ク對ノ花莖中附ク葩形ハ蜀羊
 泉ニ同シ又米田椒花ニ似タリ先尖ル淡紫色色花内涼
 紫と色葉莖花後ニ実ヲ結フ蜀羊泉ニ同シ微長ニメ
 枸杞子ニ似タリ糝ノ赤シ北國ニテイヌノナシハシ馬ノ
 ナシハシト云越後ノニ條ニテノナシハシト云北國ニテ番椒ノ一ヲ
ナシハシト云此實ノ形
コレニ似ルヲ
以テカリ云葉ハ枯レ茎ハ赤ノトコロハ不枯ノ根尚殘ル
 葉葉カ、イモ葉解トシホノテ出羽チヅサチ、クサ京
所シカイモチトメゴウカメ駿河カウカミゴカミツル共ニ似
是
 ゴカウニ出羽カウカモ遠江タトウカミ下總ムシテノテ佐後

カラスノモチテ伊勢ガブナ莖前カブコ月上ゴニシカイ
 コニサイ共ニ
草部カンカウニ越後カトリクサ江戸ニ此葉ヲ莖スレハ
ウツリ香ヲ云莖名ク
 イカレキ和名ゴニシヨ津程
字名カ、ミケサ
 葉楯ニメ先尖ル赤ニクワリカクアリニ葉對ス厚メ黒
 アリ茎葉ヲ折ハ白汁アリ春新葉ヲ生ス長カ一三
 寸肥地ニ生スルモノ五寸許ニ至ル葉形ニ近シ茎ノ皮固
 綿アリコナヨリト強クメ水中ニテ不見モノニ似テ
 ニテカリノ如クス夏葉間ニ花ヲ開ク種ヲナス長ハ一
 寸許花ノ大カ二分許チヨウカキ子孫淡紫色色ニノ涼紫斑
 点アリ實ハ別ニ葉間ニ生ス赤同先細ク尖ル籬ノ形
 ナリ濶七八分長二三寸コレヲ中解スレハ舟ノ形ナリ

赤

糖スレハ白ラ列テ外ニ疣瘡アリ錦荔枝ノ如シ嫩膚ヲ
食用ニス葉ニ麩ニ油煎トナシ食ス内ニ緑アリ
銀針ノ如シ本ニ扁キ核アリ馬羽ノ重リタル分如シ針
ヲ以テヒケハ子着テアレ、逆ニ麻キスレハ核去易シ
此銀針ヲ目ニ晒スレハ如糸トナシコレヲ魚トメトス最効
アリ中ニ美ニテハ坐褥ニシ錦ニ代ト云ヘリ和俗コレヲ和
斑枝花ト云ハ謀ニ斑枝花ハ本々ノ別ニ南部ニテ本
條ノ房ノ半解ニ木ヲ入飯ヲ饗クコレハ兒ノ戲ニ
和自來ニテイカレキト云モノ此謂ナルヘシイカレキノ
轉レタルモノカ
住持解如攝計カテノ汁ニ中ニ美ニテ金屑ヲ着ルニ此汁
ヲ用ユ致ニ五金膠添ト云又攝膠トモ云銅貝見テリ
地利 ツルソハ新考 云々ヲホウノミト云 肥前
平戸

糸脚ニナシ近年肥後ヨリ出ス種樹家ニアリ憂存ニメ
宿根ヨリ生ス甚小ハ虎杖ニ似タリ又ミソ、ハ葉ニ似テ
大ニ互生ス莖巨ク若ク如シ蔓ノ末花ヲ開ク云々ヲ信
共ニ蒼白夾々ニ似タリ云々ハ蒼白夾々ヨリ小シ三角ニ根細ク
長クメ紫黒ニ色。古ヨリイニミカハヲ以テ本條ニ充ツ
非ニイニミカハ、葉ハ蒼白夾々ニ似テ根細ク一ニ年物ニメ
菰契根ノ如キモノニ非ス萬病回春ノ扛板帰コレニ
松田子
ノ説ニ又物理小識ニ利根刺蒜アリコレニ扛板帰ト
一物トメ可ニ性的也云ス

紫葛

山谷中ニ生スエモツル薔苳果ニ似タリ薔苳果ハ葉十月ニモア

カ子ア

癰癤瘡腫虫咬瘡根
傳之血系風毒瘡腫游
丹精傳花飲汁赤
涼血解毒利小便根獨
酒脈消癰腫神効時珍

烏

蘇母

五爪龍

リ本條ハハ七ナシ初生葉ハ紫色ニ夏長ク青ク唯
葉ノステケノミ紫色ニ秋ニ玉リ茎葉ニ紅色ニ夏長ク
葉實ハ葉色ニ夏長ク本條ノ花實ハ最嬰實似リ
根ノ形ハ不同巨クノ紫色ニ葉實根ハ細クノ別一名ナシ
一種紫色ニナラサルモノアリ葉白ニ七ナシ尾シ足ラ
ノフウト云嬰實ニナリ救荒本草ヤノ蛇葡萄コレ
事師ニタケレ喜テ産地ニ生ス和列南都ニ絶テナシ
其ノ末方根コリ生ス葉互生葉ニ對ノ縁夏アリ
初生葉ハ淡紅色一茎毎ニ五葉正中ノ葉長ク人

指ノ形ノ如シコレ金葉ナリ又人參葉ニ似タリ夏ノ末
秋ニ至リ夏ノ末ニ茎ヲ生シ花ヲ開ク籠生ス葉白色
後同定ヲ徒ノ熟ノ黒シ大サ南天燭子ノ如クタクハ
昆シイナ補ニテシタル

以律草

カナムグラ ナ、モクラ

モクラト訓スルハ誤ニモクラハヤエモクラノトニ救
荒野譜ノ猪殃コレニ本條ハ一年物ニ夏ニ葉ヨリ
ニ生ニ大ニ茂ス葉ニ七刺アリ葉多ク對ス形
蕨麻葉ノ如シ七尖許ニ鋸齒アリ葉色ヲ青ク
八九月頃花アリ夏ノ末毎ニ多ク撥ハズ長ク又寸
中ニ寸許ノ種ノ如シ花ノ大サ一分許又辨淡綠色

葩ノ外微ク淡紫色内ニ黄白色ノ莖葉アリ後實ヲ
結ブ大麻子ノ如シ實體スレハ根ヲ正ニ枯ル

羊桃

多同名楸椶桃アミナレ五斂子
粒一ル一四物便有羊桃之名

古ヨリ諸記録ニ未ダ切考索レ難シ

終石

テイイカカツラ ツルクテナレ伊勢

尋常ノモノハ葉長ク橋葉ノ如ク厚シ兩對ス白汁
アリ冬紅葉スルアリ紅葉セサルアリ紅葉ノモノ最可
觀短ナルモノアリ細葉アリ近來種樹家ニ紫背メ
細葉ノモノアリ俱ニ夏花ヲ開ク白色ノ後葉ニ変ス
莖ヲ結ブニ條心形ノ如シ内ニ如葉アリ変メハ五條ニ條
ニ生ス

釋名石血

時珍以テ一物トス互ク氣器ノ説ニ從テ別クハレ一種葉
小ナ莖ニ紅葉スルモノ石血ナリセキタイカツラト云

木蓮

イタミミサ名イタミビ今名イタミカツラ イヌタマフ

木饅頭

葉厚ククメ木樺ノ如シ折レハ白汁アリ互生ニ木石
鏡ス花ニ五クメニ実ヲ結ブ無花果ノ如シ小葉ノモノヤ
リコレモ実ハ大ニ同葉ノモノアリ木蓮 木蓮
遼ノ省略ニ同名アリ木芙蓉及木蘭ニモ木蓮ノ
名アリ

附録

地錦 ツタ ヘイテラアルホウリヤ紅毛

壁ニ生テ生ス冬ノツタニ秋紅葉ス冬ニ葉ニ枯ツ
別有地錦云ニキソウナリ

扶芳藤

ニサキノカツラ ツルニサキ

蔓生ノ杜仲^{ニサキ}ノ葉花^{ニサキ}ニハ大ニ盤^{ニサキ}葉^{ニサキ}ス
木^{ニサキ}本^{ニサキ}ノモノヨリ大ニナル一種小葉^{ニサキ}ノモノアリ狭^{ニサキ}ニテ
紐^{ニサキ}ク^{ニサキ}ハスツルニサキヲ以テ本條ニ充^{ニサキ}ルハ稍^{ニサキ}若^{ニサキ}水
ノ段^{ニサキ}之^{ニサキ}而^{ニサキ}ノ的^{ニサキ}者^{ニサキ}トハ云^{ニサキ}難^{ニサキ}シ

常^{ニサキ}玉^{ニサキ}草^{ニサキ}

冬^{ニサキ}ツタ キツタ カンツタ 伊^{ニサキ}勢^{ニサキ} イツニテクサ

哥ニ詠スルモノコレナリ
壁生ヲナトナス

初^{ニサキ}ハ蔓^{ニサキ}生^{ニサキ}ノ葉^{ニサキ}石^{ニサキ}ナク黒^{ニサキ}ニアリニ尖^{ニサキ}後^{ニサキ}ハ木^{ニサキ}本^{ニサキ}ニ
茂^{ニサキ}ク長^{ニサキ}大^{ニサキ}ニ至^{ニサキ}ル葉^{ニサキ}ノ形^{ニサキ}変^{ニサキ}メニ尖^{ニサキ}ナラズ一^{ニサキ}尖^{ニサキ}ニナリ
ナリテ中^{ニサキ}狭^{ニサキ}ク兩^{ニサキ}頭^{ニサキ}尖^{ニサキ}ル葉^{ニサキ}花^{ニサキ}ヲ同^{ニサキ}クウ^{ニサキ}トノ如^{ニサキ}ク缺^{ニサキ}ヲナ
ス一寸^{ニサキ}余^{ニサキ}正^{ニサキ}白^{ニサキ}ニ包^{ニサキ}ヘト云^{ニサキ}冬^{ニサキ}マ^{ニサキ}テ實^{ニサキ}熟^{ニサキ}ノ黒^{ニサキ}ニ南^{ニサキ}燭^{ニサキ}ヨ

ヨリ小^{ニサキ}シ六^{ニサキ}録^{ニサキ}ヲナス此^{ニサキ}紫^{ニサキ}汁^{ニサキ}ヲ出^{ニサキ}ス紙^{ニサキ}ヲ隔^{ニサキ}ム又^{ニサキ}一種^{ニサキ}ニ尖^{ニサキ}
ニナルモノアリモミナテカツラト云^{ニサキ}又^{ニサキ}モミナテヤウノ冬^{ニサキ}
ツタニ云^{ニサキ}別^{ニサキ}ニ一名^{ニサキ}ナレ附^{ニサキ}方^{ニサキ}ニ尖^{ニサキ}葉^{ニサキ}薜^{ニサキ}荔^{ニサキ}トアルヲ
以^{ニサキ}テ冬^{ニサキ}ツタトシタルモノナリ

千^{ニサキ}葉^{ニサキ}草^{ニサキ}

未^{ニサキ}詳^{ニサキ}

松^{ニサキ}岡^{ニサキ}子^{ニサキ}ハ蔓^{ニサキ}生^{ニサキ}ノ藤^{ニサキ}ト一^{ニサキ}物^{ニサキ}ト見^{ニサキ}タリ而^{ニサキ}テ千^{ニサキ}葉^{ニサキ}草^{ニサキ}ハ
冬^{ニサキ}ノ葉^{ニサキ}凋^{ニサキ}ムト云^{ニサキ}ハ別^{ニサキ}ニ一種^{ニサキ}アリ特^{ニサキ}珍^{ニサキ}ニ二^{ニサキ}物^{ニサキ}トス釋^{ニサキ}
疑^{ニサキ}ヲ闕^{ニサキ}テ可^{ニサキ}ヘ古^{ニサキ}ヨリコレヲツルアテテヤト訓^{ニサキ}スルハ非^{ニサキ}ニ
ワルアテテヤハ救^{ニサキ}荒^{ニサキ}存^{ニサキ}竹^{ニサキ}ノ絞^{ニサキ}絞^{ニサキ}ニ藍^{ニサキ}コレナリ

忍^{ニサキ}冬^{ニサキ}

スイカツラ スイハナカツラ 忍^{ニサキ}冬^{ニサキ} 今ニテハ
通名

メ、イ、ビヨス能^{ニサキ}ニナルニルハ日^{ニサキ}エ 花名 カツベルフウリイ 花名

葉兩對各不結者ノハ葉長ミアリテ楕之又回葉
ノモノアリ共ニ七葉アリ此葉ヲトリテ常用ス秘傳
最可ク又葉世ノ思冬ト云テ葉ニ岐アルアリコレハ
別種ニ非ス古キ夏ノ中ニ此葉生ス肥後ノ産ニ
大世ノモノアリ種樹家ニコレヲ唐種ト稱ス皆胃
ニ花アリ一知毎ニ二花並ニ着リ細長ニ蒼ノナキハ
淡紫色開ケハ白色一ノ葩ハ大一ノ葩ハ小小ノ方ハ
一辨大ハ四辨長ハ葉アリ香アリニ花ノ中一花ノ
ハ開ク一花ハ翌日開ク一兩日ヲ経レハ葉色ニ夏ノ故
金銀花ト云後ハ葉ヲ結フ種ノ黒シ大ナ一分許ニ粒
着ク者一ハ小ナルモアリコノ花ヲ常用ス一様本

本ノモノアリ高サ四五尺葉花共ニ同シ唯葉ノ色赤
ニ生ハナシ種樹家ニアリヒヨウタンノ木金銀木
ト云ニ花ノ大ハ一ハ小一ハ大形細腰蒲葎ノ如シ

耳蘇 未詳

ワルアニチヤトスル説ハ誤ニ漳州府志ニ形狀詳ナリ
紋股藍ノ如キ小キ者ニ非ス

漳州府志曰耳蘇本竹一名咸蘇一名甜蘇李
濟翁次見暇集曰耳竹蘇非國老之葉而方蘇
名也其葉似蕪而微而サ刺枝竹似甜故名也出在
潮陽而南漳亦有許次見暇銀曰所言耳竹非國
老之葉者乃南方蘇名也其葉似蕪而微而無

其葉似夜合而葉細其花淺紫而葉黃其實亦居申中以投葉似甜故謂之木竹藤土人異呼為竹而已出瀾陽而南漳亦有故備載之

關山謂為下竹
上疑服耳字

附錄 木竹藤藤 甜藤 共 未詳

含水藤 未詳

隱草 續新ノ條下ニ續新藤一名諾藤ト云之ノアリ此クハ此含水藤ノ一ナルハニ

附注 鼠藤 未詳

天仙藤 未詳

青木香云天仙藤ト云一醫學云傳曰天仙藤者

木香藤之 万病回春本日
日名云云

紫藤藤 未詳

和園子ハツルムメトキトス未的者又フウトウカツラヲ以テ此者ニ説アリ亦非之フウトウカツラハ菊將眉花酌者不

附錄 烈帶 未詳

和園子ハコレヲフウトウカツラトス非之

清風藤 未詳

百核藤 未詳

省藤 トウ 赤藤・紅藤

弓傘ノ柄ツラヲ傳スルモノ名一ノ別名ニ詳ニ暖國産

時珍曰赤藤善殺其利小便

煎器曰蛇共煮汁服之
五淋瀉痛：赤豚存
芥麻根小分各末百抄
湯下每服一錢如神
石宛原方止

ノ北方ニ十二嶺南ニアリ長大ニメ谷ヲコヘテ盤石
スト云赤紫白ノ二種アリ瓊州府志ニ見ヘタリ近
来琉球ヨリ有テ来ス云云生ニ似葉ノ如ク粗
互ケス葉ノ如ク蔓生伏見八幡堂ニ移栽レテ
皆枯タリ外ハハ物ヲ得ス肉ハ下品ノ香ヲ傳ス
嶺南ニテハ細織ニメ器ニ制ス

紫花

紫白二種アリ紫花ハタテ白花ハ少シ白花同
次ニ紫花ノモノ同ク白花ハ葉大ニ厚シ花長カ
クス紫花ノモノ山野ニ自生アリコレヲフテト
云コレニ種不長市中ニ架ヲ作りテ栽レハ種長サ

二人許ニ至ル。藤草和方書。一種トヨウフチアリ

花ニ葉似。小シ六月フチ一豆フチ朝三ニモメノフチト云

別ニ傳名ナシ

藤鷹木 未詳 別ニ一名ナシ

附録 折傷木 未詳

和同子引錦囊秘録カニホクトス非之秘録ノ文
ニ此ニ記トコロニ同ノ蔓草ニカニホクハ本奉之故ニ
非トス

丹始玉木 未詳

瓜延母 未詳

此所引南都賦今詳サ此文左下沖野野賦曰瓜延蔓於菴草ニコレヲ
誤リ引タルモノナリ

千里及 未詳

泉南雜志曰可保層黑如鳳鏡花可保指江

蘇美 レワウ 朱美ト書ト

煎煉シタルモノ之形長キモノ上品偽雜ナレコレヲ筆管

美ト云 芥子菘 画家ニハ皆コレヲ用ユ下品ノモノハ松脂ノ

如クニ塊ヲナス内ニ沙石木葉アリ雜解一所謂沙美ト

コレニ日在へ来スモノハ交趾ノ産ナルハ海原ト云蘇ハ

和産未詳石都 雌美アリコレニシワウト云政ニ

業肆ニテコレヲ石雌美ト云テ蘇美ニ別ツ

附録諸蘇ニテ種 石未詳

本草綱目釋說卷十八終

